



Malawi Voice vol.16

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊

言語聴覚士 飯田知美

ごあいさつ

おたよりの発行が遅くなってしまい、申し訳ありません。このたび、マラウイ南部に広がった吸血人間騒動の影響で、マウンテンビュー聴覚障害児特別支援学校での活動が継続できなくなってしまいました。一連の騒動は私が活動していたチョロ県の隣、ムランジェ県で9月の中旬ごろに発生しました。呪術儀式の一環として血液を飲む吸血人間が出没しているとの噂が広がり、同地域訪問者の襲撃、疑われた人物への集団リンチによる殺害、怪しい家への放火、車両破壊事件が相次いで発生しました。この事件によって、10人以上の死者が出たうえ、発生地域もチョロ県などの近隣県に広がり、JICA ボランティアの当該地域での活動は中止となっています。

私が活動していたチョロ県ブンブウェにおいても、同様の事件による死者が出たことで、10月20日をもって、一旦首都のリロングウェに退避することが決定しました。その後も騒動が収まる見通しが立たずに、一か月間の退避を経て、任地を変更することとなりました。新しい配属先は、ブランタイヤ県のクインエリザベス中央病院にある、オージディオロジッククリニックです。このクリニックでは、アメリカ人のオーディオロジストという聴覚に特化した専門家が働いていることもあり、実際には近くの障害児クリニックで言語指導を行っています。詳しいクリニックの様子や活動内容については、「11・12月の活動報告」のページでご紹介しようと思います。

大好きだった特別支援学校から離れることになり、寂しさや、いろいろなことが中途半端なまま急に終わってしまった悔しさで、正直様々な葛藤がありました。ただ、たくさんの方からの支援もあり、新しく活動できる場所を用意していただいたことで、残り僅かな期間ではありましたが、新たな環境でたくさんを学びながら日々を送っています。

活動期間が残り一か月を切り、来月には日本へ帰国します。最後まで悩むことも苦しいことも多々ありましたが、大好きな人々に出会え、新しい発見や経験もたくさんありました。この二年間は、確実に私にとって大きな財産です。この Malawi Voice も、今回をもって最終号とさせていただきます。二年間、遠く離れた日本から、見守っていただき、時には励ましていただき、本当にありがとうございました。また、日本で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

2017年12月

飯田知美

マラウイの買い物事情 Part.2



今回は前回に引き続き、マラウイの買い物事情についてご紹介します。

1. クワチャの価値（レート）

物の値段などのお話をする前に、マラウイのお金の単位である「MK（マラウイ・クワチャ）」が一体「日本円」ではどの程度の価値になるのかをご説明しておきます。マラウイでは日本円の取り扱いはなく、海外のお金は一旦アメリカドル（USD）に換金してから MK に換金するという 2 段階の手続きが必要となります。そのため、MK と日本円のレートを調べる時には、USD の為替レートが大きく関係してきます。

マラウイでは、以前「固定為替相場制度」を採用していました。つまり、USD の価値がいくら変化しようと「1 MK=150~160 USD」と固定していたのです。しかし 2012 年 5 月から「変動為替相場制度」に変更。日本でよく聞く「円高・円安」のように、経済や政治情勢によって MK の価値が変わるようになりました。これにより、「MK 安」が急速に進み、現在では「1 USD=730MK 前後」になっています。つまり、約 5 年で MK の価値は約 5 倍下がったこととなります。インターネットでは手軽に（しかもダイレクトに）日本円と MK のレートをみることができます。10 月 18 日現在のレートは「1 円=約 6.5MK」でした。そこで、今回のおたよりではこの値を使用していきます（つまり「マラウイの物の値段÷6.5=日本円の値段」となります）。

2. ある日の買い物 (in プンプウェマーケット)

ある日の私の買い物です。右側にそれぞれの物の値段を表示しました。



上の商品合計で約 854 円です。この日、いつものお店のおばちゃんのセールストーク（約 3 分）に負け、初めて高級魚チャンボを購入したのでやや高め。大体いつもは一週間分の野菜と果物、パンなどで MK2,000 前後なので、約 300 円で一週間分の食材が手に入ります。

1. 卵 10 個	80×10=800
2. 小包装のお菓子	50×4=200
3. 大きい袋のお菓子	100
4. マスタードリーフ	200
5. みかん	100
6. オクラ	50
7. トマト	800
8. バナナ	300
9. チャンボ（魚）	1,500×2=3,000
合計	MK5,550 （約 854 円）

3. 物の値段（物価）比較

基本的には、マラウイはほとんどの品物が日本よりも物価が安いです。特に、村人を含めた全てのマラウイ人の必需品といえる、野菜類・肉類や、石鹸やノートなどの日用品は、村人でも購入できる価格に設定してあります。ただし、一般的に村人が手にしないような電化製品・ぜいたく品・外国人用の調味料などは、高い値段で取引されています。ここでは、いくつかの商品の値段をご紹介します。

＜マーケットやキオスクの品物の値段＞

ここでの顧客は主にマラウイの大部分を占める農村部で生活している村人たちです。もちろん地域や周辺住民の経済力によって、値段や種類も異なります。そのため、ここではチョロ県ブンブウェで調査した物価を表示しています。ブンブウェは、野菜や果物が豊富に生産されている地域のため、生鮮品の値段は全国平均よりも低いようです。日用品に関しては、平均的な価格だと思います。

【ブンブウェマーケット・キオスクの価格一覧】

品名	数量	価格 (MK)	価格 (日本円)
食料品類			
葉野菜（マスタードリーフ等）	1束（20枚程）	100 (MK)	15 (円)
じゃがいも（メークイン）	1バケツ（30個程）	1000	154
にんじん	4本	200	31
玉ねぎ	1束（4個程）	200	31
キャベツ	中1玉	250	38
オクラ	1山（10本程）	100	15
マンゴー	中1個	50	8
みかん	大1個	100	15
パイナップル	中1個	400	62
ニワトリ（鶏肉）	中1羽	4000	615
魚	小4尾	200	31
豚肉	500g	700	108
ヤギ肉	1kg	1000	154
豆	1kg	700	108
袋牛乳	1袋（250ml）	150	23
塩	1袋（1kg）	250	38
ソヤミート	1袋（90g）	100	15
食パン	1斤	350	54
日用品類			
プラスチックバケツ	中1個	1600	246
サンダル	1足	1300	200
取っ手のない鍋	小1個	1200	185

農業用くわ	1個	1800	277
石鹸	1個	300	46
ノート	1冊	100	15
ペン	1本	150	23
歯ブラシ	1本	300	46

※2017年1月～10月調査、野菜や果物は旬の時期の価格

※日本円は小数点以下四捨五入

いかがでしょうか。日用品は物によっては日本の100円ショップの方が安いかもしれません。一方、食料品は大体どれも日本より格安で、しかも量が多いです。基本的にマラウイは大家族で大量買いなので、一人暮らしの私には量が多すぎて食べきれません。そのため、同じ値段で無理やり減らしてもらうか、大量に料理して生徒と一緒に食べていました。マラウイでも、値引き交渉はよく行われていますが、自分が生活していたブンブウェでは地元の経済に貢献するため、値引き交渉はしないことにしていました。それでも、外国人だからと値段を上げる人はいないし、「プライズ」と言っておまけをくれたりしました（気持ちは嬉しいですが、ただでさえ量が多いので逆に困ることが多い…）。

<ブランタイアのスーパーの品物の値段>

ブランタイアのスーパーは、富裕層や外国人が顧客の中心です。私も、マーケットで手に入る物はマーケットで購入していたので、ここではスーパーで外国人（日本人）が購入するものを中心に上げています。

品名	数量	価格 (MK)	価格 (日本円)
食料品類			
ケチャップ (Heinz)	1本 (500ml)	1895 (MK)	292 (円)
冷凍フィッシュフライ	1袋 (400g)	2348	361
ポテトチップス (Lays)	1袋 (105g)	980	151
コーンフレーク (ケロック)	1箱 (400g)	2440	375
ピーナッツバター	1個 (400g)	1995	307
ココアの粉缶 (ネスレ)	1個 (250g)	3418	526
紅茶 (リプトン)	1箱 (100パック)	3995	615
コーヒー粉 (ネスカフェ)	1個 (200g)	6548	1007
イチゴジャム	1個 (450g)	1355	208
食用油	1個 (2ℓ)	2090	322
こしょう	1個 (100ml)	2298	354
袋ラーメン (中国製)	1袋 (一食分)	558	86
米 (日本米に近いもの)	1袋 (5kg)	4730	728
醤油 (キッコーマン)	1本 (250ml)	3995	615
オリーブ油 (エクストラバージン)	1本 (1ℓ)	8595	1322
小麦粉	1袋 (2.5kg)	1695	261

日用品類			
歯磨き粉	1個（100ml）	555（MK）	85（円）
リンス（パンテーン）	1本（400ml）	4895	753
コピー用紙	1セット（500枚）	2995	461
ボールペン	1セット（2本）	1000	154
サッカーボール（公式球）	1個	44550	6854
ラミネーター（A4用）	1台	37100	5708
ファンヒーター（65W）	1台	146000	22461
ホース	1個（20m）	15600	2400
キャンプ用折り畳み椅子	1台	35250	5423
冷蔵庫（170L）	1台	209000	32154
洗濯機	1台	279000	42923
扇風機（40cm、60W）	1台	33600	5169

※2017年1月～10月調査、調査場所はCHIPIKU（ブランタイヤ）、GAME（リロングウェ）

※日本円は小数点以下四捨五入

同じ商品を比較しているわけではないので、単純な地域や店による値段に比較はできませんが、ブランタイヤのスーパーに買い物に行くと、多額のお金が必要になることが分かります。特に、日本食や、マラウイのローカル料理以外の料理を作ったり、食べようと思うと、とにかくお金がかかります。私も、基本的にはマラウイのローカル料理を食べることが多いですが、時々肉じゃがやみそ汁等の日本料理を作ります。日本食に必要な醤油がマラウイのスーパーで手に入るのはとても助かりますが、1本600円以上ととても高い…。料理が大好きな隊員や、マラウイ料理が苦手な隊員は、多い場合は月に1本のペースで醤油を消費している（もちろんその他の食材や調味料もたくさん購入している）そうで、高額な食費が必要になります。

その他、電化製品やマラウイの人があまり使用しない商品も日本よりは安くても、最長でも2年しか使わないことを考えるとやはり高額。中古の物を取り扱う店もありますが、「冷蔵庫が数日で動かなくなった」「自転車に3回乗ったらペダルが外れた」等の他隊員のエピソードを聞くと、なかなか中古品を購入する気になれませんでした。

4. こんな物も手に入る！？

値段を考えなければ、意外といろいろな物が手に入るマラウイ。最後に、私が勝手に“意外だ…”と感じた商品をいくつか写真とともにご紹介していきます。

<パンテーンのシャンプー&リンス>



日本でもおなじみのパンテーンのシャンプーとリンス。日本にいた頃から使用していたので、日本から持参して「持ってこなくてよかったじゃん…」とちょっと思いました。ただ、上で値段を紹介した通り、値段は日本より高くなっています。

マラウイの人は富裕層であってもシャンプーは使用してもリンスを使用する人はほとんどいません。そのため、シャンプーしか取り扱っていない店も結構あります。ちなみに、農村部の人は髪も含めて全身石鹸のみです。

<わさび>



日本の調味料わさび。この写真は英語表記になっていますが、平仮名で書かれている同じ商品もあります。

寿司は最近では多くの国で食べられるようになってきましたが、マラウイで寿司を食べられる店はありません。もちろん生魚を食べる習慣もなく、寿司の話をするとき必ずみんな顔をしかめます。そんなマラウイ生活の一体どのタイミングでわさびを使用するのか…いまだに謎です。ちなみに、購入している人を見かけたこともありません。

<トレーニングマシン>



自宅で体を鍛えたい人の味方。写真はバイクマシンのみですが、ウォーカーやダンベル、複合マシンなど、いろいろな種類があります。都市部や外国人が多く住む地域には、スポーツジムもあります。

鍛えた後はプロテインでしょ！という方のために、安心して下さい。プロテインもありましたよ。



<昆布茶…？>



前々から気になっていた黒いボトル。調味料なのか飲み物なのかも分からなかったため、同僚に質問してみました。すると、「This is Kombutya」と回答。一瞬、何て言われたのか分かりませんでした。何度聞いても「Kombutya」そう、「昆布茶」です。ただ、原材料に「昆布」は含まれておらず、味は全く昆布茶ではなく、ジュースらしいです。なぜこの名前になったのかが気になります。隊員との間でこれまで話題になったこともありませんでした（みんなは知ってたのかな？）。この見た目が購買意欲を下げる…のですが帰国までに一度挑戦してみようと思います。商品自体はよく見かけるので、そこそこ買われているのだと思います。

これらの品物の他にも、「キューピーマヨネーズ」「出前一丁（袋麺）」「味噌」なども首都のリロングウェで手に入ります。また、首都の中国系の店に行くと、「ごま油」「オイスターソース」「コチュジャン」などの調味料を始め、「豆腐」「干しシイタケ」などの（マラウイでは）珍しい食材もいろいろ売っています。料理をあまりしない私には恩恵のない物が多いですが、隊員の家にお邪魔した時は、これらの食材のおかげでおいしい料理をたくさん食べさせていただきました。

以上、意外といろいろ手に入るマラウイの買い物事情でした。



11～12月の活動の様子



「はじめに」でもお伝えした通り、11月から、新しい配属先での活動を開始しています。そこで、活動先の概要と、活動内容についてご紹介していきます。

【クイーンエリザベス中央病院とは】

マラウイには4つの国立中央病院があります。それぞれ、リロングウェ・ブランタイヤ・ゾンバ・ムズの大都市圏に1つずつ設置されています。クイーンエリザベス中央病院は、ブランタイヤにある中央病院です。たくさんの診療科があるのですが、それぞれの科が大学のように独立した建物を持っていることもあり、敷地が非常に広いです。国立・公立の病院やヘルスセンターは、基本的に無料で医療を受けることができます。

マラウイへの支援や養子縁組を積極的に行っていることで知られる、アメリカの有名歌手マドンナの支援によって建設された建物もクイーンエリザベス中央病院にあります。

【オーディオロジークリニック】

クイーンエリザベス中央病院の中にある一つの独立した診療科の一つです。もともとは耳鼻科の中に存在した部門でしたが、昨年新たに専用の建物が海外の寄付で建設され、耳鼻科と独立して「オーディオロジークリニック」があります。利用者は赤ちゃんから大人まで幅広く、聴覚障害児・者とそれが疑われる患者が対象になっています。

このクリニックの責任者はアメリカ人のオーディオロジストで、その他にもアメリカ人研修生1名と、マラウイ人オーディオロジスト（海外で資格取得）が数名います。オーディオロジストは、日本の言語聴覚士よりも聴覚障害分野への専門性が高く、このクリニックは人材・設備ともに非常に整っています。

ところが、このクリニックは主に聴力評価と補聴器の装用指導や調整などを中心に行っていて、個別の言語指導は別の施設や学校へ紹介していました。そのため、このクリニックから紹介する先の1つとなっている『The Rehab Clinic』で、私は主に言語指導を行っています。

【The Rehab Clinic】

リハビリテーションが必要な小児を対象としたクリニックで、ブランタイヤ市内にあります。同じ建物の別の部屋では、別の団体が障害児のデイケアサービスのような物を行っています。障害種別に制限なく、理学療法・作業療法・言語療法を受けることができます。

リハビリテーションを行っているのは、リハビリテクニシヤンの資格を持つスタッフ2名です。リハビリテクニシヤンは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の全ての分野を広く浅く学習しています。そのため、私とともに活動しているリハビリテクニシヤンは、主に言語療法を担当し、もう一人が作業療法を担当していますが、二人とも理学療法も並行して行っています。ここでの主な活動は、実際に脳性麻痺や広汎性発達障害等の子ども達へ言語コミュニケーション指導を行っています。また、それぞれの子どもに対し、スタッフとどんな指導ができるのかを相談して教材作りもしました。

～ The Rehab Clinic ～



言語療法室の様子。脳性麻痺で座位がとれない（座れない）子どももいるので、寝転べるスペースもあります。ここで理学療法を行うこともあります。

理学療法スペース。歩行練習用の平行棒やバイクマシーンもあります。下の写真のように、脳性麻痺の子ども用の座位保持椅子もあります。



日本の100円ショップで購入していたアルファベットパズルです。日本語も覚えてもらおう♪と買って持ってきて、実際に見てみると、「やく」「いっかく」「クサリヘビ」等、私もよく知らない動物が…。当然子どもも知りません。



週に2回（月・金）、3つの保育園で訪問言語指導を行っています。利用者は毎回決まっていますが、園の方から、新しい子どもを紹介されることもあります。園内の部屋やベランダのスペースを利用して指導を行っています。写真の男性が同僚のリハビリテクニシャンです。





障害児の早期発見に向けて



前回のおたよりで少し紹介した取り組みです。元の配属先のマウンテンビュー聴覚障害児特別支援学校や、他の障害児施設の見学を通して、マラウイの障害児支援が抱える問題は本当にたくさんあります。その問題の一つに「障害児の発見の遅れ」があります。日本では新生児期のスクリーニング検査や、定期健診、さらには母子手帳の発達チェックページ等、障害児を早期に見つけるシステムがいくつかあります。マラウイでも、ヘルスセンターや病院での定期健診は行われていますが、この健診は「栄養失調児の発見と予防接種」が主な目的となっているので、子どもの発達について触れられることはほとんどありません。

他の隊員が村を回って障害児を探す取り組みを行ったところ、1つの地域で約半年間に200人以上の障害児がいることが分かりました。そのうち、ほとんどの障害児が何の支援も受けずに家庭で過ごしているか、通常の学校で支援のないまま授業を受けているのが実情です。

この現状を将来的に改善できないかと考え、「発達チェックシート」の作成を行い、保健省の関係者の方々へのプレゼンテーションを行い、マラウイ公式ヘルスパスポートへ掲載してもらうことを提案しました。以下に、ヘルスパスポートについて、作成した発達チェックシートについてご紹介します。

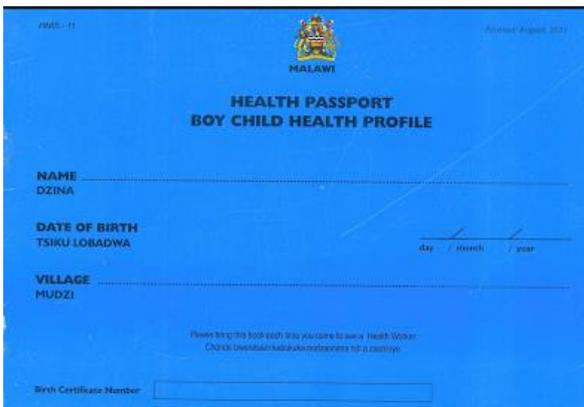
1. ヘルスパスポートとは

マラウイでは、病気やケガで病院の治療や投薬をうける際、ヘルスパスポートという小さな手帳のようなものを持参します。医師は、このヘルスパスポートをカルテとして診断や薬について情報を記載します。性別と大人・小児などで数種類のヘルスパスポートがあり、新生児は出産の際に、大きめ(A5サイズ)のカラー版の公式ヘルスパスポートが受け取れます。新生児用のヘルスパスポートには、予防接種の接種記録や身長体重を記入するページ、母乳や栄養に関する情報が記載されたページ等があります。

2. 発達チェックシート

月齢ごとに、子どもの発達に関して4~5つのチェック項目を設けました。「運動」「聴覚」「知的」「視覚」の各領域に関する項目を、日本の母子手帳や発達検査、海外の母子手帳等の項目から抽出しています。軽度~中等度の発達の遅れについては、これらの項目だけでは発見が難しいですが、重度の障害児の早期支援を目的に作成しています。

今後はヘルスセンターなどでの健診の際に利用してもらったり、保護者への発達研修の資料として使用してもらえればと願っています。



マラウイの公式ヘルスパスポート（新生児・男児用）

作成した発達チェックシート（現地語版）。同じ内容の英語版のものも作成しました。

